

令和 8 年 3 月 23 日
 健康福祉部疾病対策課
 043-223-2574

感染症予防のための情報提供について

病名	腸管出血性大腸菌感染症（O157）	
	患者 A	患者 B
年代・性別	10 歳未満・男性	10 歳未満・女性
住所	八千代市	八千代市
職業等	未就学児	未就学児
症状等	腹痛、血便、発熱、 溶血性尿毒症症候群（HUS）	腹痛、水様性下痢、血便、 溶血性尿毒症症候群（HUS）
発病年月日	令和 8 年 3 月 10 日	令和 8 年 3 月 9 日
届出年月日	令和 8 年 3 月 13 日	令和 8 年 3 月 23 日

八千代市在住の 10 歳未満の男性 1 名（患者 A）と女性 1 名（患者 B）が、腹痛、血便等の症状を呈し、八千代市内の医療機関を受診し、入院、検査、治療を受けていたところ、腸管出血性大腸菌感染症及び溶血性尿毒症症候群（HUS）と診断された。

なお、現在、患者 A、B は入院加療中である。

【患者発生の経過】

患者 A		患者 B	
3 月 10 日	朝から下痢、腹痛、血便が発現 同日、市内の医療機関 A を受診	3 月 9 日	腹痛、下痢症状あり
3 月 12 日	症状改善せず 市内の医療機関 B を紹介受診	3 月 10 日	市内の医療機関 A を受診
3 月 13 日	脱水傾向あり 医療機関 B へ入院 便から腸管出血性大腸菌 O157 が 検出。同日発生届の提出あり	3 月 13 日	医療機関 B へ入院
3 月 15 日	集中治療室で治療開始	3 月 15 日	溶血性貧血、血小板減少等、 溶血性尿毒症症候群（HUS） の徴候あり 集中治療室で治療開始
3 月 17 日	溶血性貧血、血小板減少等、溶血 性尿毒症症候群（HUS）の徴候 あり	3 月 17 日	検便の結果陰性 国立健康危機管理研究機構で 検査するため、検体を採取。
		3 月 19 日	血清中から O157 凝集抗体 が検出
		3 月 23 日	医療機関 B が発生届を提出

【県民の皆様へ】

腸管出血性大腸菌感染症は冬でも発生します。

- 調理や食事の前、動物や土に触った後には、必ずせっけんを使用して十分に手を洗いましょう。
- 細菌が残っている場合があるため、肉を食べる場合は、中心部まで十分に加熱したものを食べるようにしましょう。また、「生肉を扱う調理用の箸やトング」と「焼けた肉を扱う食事用の箸やトング」とを必ず分けましょう。
- 感染者の数％程度で溶血性尿毒症症候群（HUS）など非常に重症な状態になる場合もありますので、生肉等を食べた後、下痢、血便等の症状がみられた時は、早めに医療機関を受診し、その旨を医師に伝えましょう。
- 社会福祉施設、介護保険施設、学校等においては、日頃から職員、施設利用者等の健康管理に注意しましょう。

【参考】

腸管出血性大腸菌感染症とは

1 感染経路

- ・腸管出血性大腸菌は牛など家畜の腸管内にすることがあり、その糞便で汚染された食品や、糞便で汚染された場所を触った手指から経口的に感染する。

2 腸管出血性大腸菌とは

- ・大腸菌の中にはベロ毒素を産生し、出血を伴う腸炎や溶血性尿毒症症候群（HUS）を起こす腸管出血性大腸菌と呼ばれているものがある。代表的なものは「腸管出血性大腸菌 O157」で、そのほかに「O26」や「O111」等が知られている。

3 潜伏期間

- ・3～5 日がもっとも多い。

4 症状

- ・腹痛、水様性下痢、血便
- ・嘔吐、38℃台の高熱
- ・重篤な合併症である溶血性尿毒症症候群（HUS*）になる場合もある。

*HUS とは

溶血性貧血、血小板減少、急性腎障害の3主徴をもって診断する。一般に HUS は腸管出血性大腸菌感染症の患者の約 1～10%に発症し、下痢あるいは発熱出現後 4～10 日に発症することが多い。

5 治療

- ・対症療法
- ・脱水に対する処置（補液など）

6 腸管出血性大腸菌感染症の年別届出数（括弧内は HUS の発症者数）

	2022 年	2023 年	2024 年	2025 年	2026 年※
千葉県	149(3)	154(3)	183(6)	200(3)	13(2)
全 国	3,352	3,811	3,748	4,319	278

※千葉県分は 2026 年 3 月 23 日までの確認済みの届出分。全国分は 2026 年第 10 週*現在。

※現在調査中の患者も含んでいるため、今後数値が変動する可能性あり。